

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。

今月分の請求書を送付いたしますので、ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

徐々に冬らしくなってきた今日この頃です。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

暦の上では冬になりましたが、秋晴れで気持ちの良い青空が広がったある日のこと、ローカル電車とコミュニティバスを乗り継いで、和歌山県の北部、高野山に登る参詣道の中腹にある、丹生都比売神社を訪れました。

人里離れた静かな神社を想像していたのですが、すぐそばで「ねんりんピック」というイベントが開催中。また、神社には七五三詣でのご家族が次々に訪れて、意外と賑やかでした。

丹生都比売神社は、「紀伊山地の霊場と参詣道」のひとつとして世界遺産に認定されています。

高野山も元は神社の神領だった場所を譲り受けたそうです。

唐で修業を終え帰国した空海の前に、丹生都比売大神の息子である高野御子大神が狩人に化身して現れ、高野山へ導いたといわれています。

丹生都比売神社の神道と高野山の仏教は、密接につながり共存して現代まで続いてきました。

高野山で修業をする僧侶たちはいまでも、修行の節目には丹生都比売神社を訪れて、護摩札を掛け祈願をするそうです。

また、高野山の中には日本で2番目に大きい春日造りの神社があり、丹生都比売大神と高野御子大神を祀っています。明治時代になって神仏分離政策が行われた際にも、高野山は「これは大日如来をお祀りしているお堂である」と主張し、神社を守ったのだそうです。丹生都比売大神は天照大神の妹神で太陽の神。大日如来も太陽を意味しているので嘘ではないのですが、政府とのやり取りはなかなか厳しいものだったのではないのでしょうか。

丹生都比売神社の本殿の左端には行勝上人を祀った若宮が鎮座しています。こちらが残った経緯は記録がないようですが、神社の周辺にたくさんあった高野山のお堂はすべて取り壊しとなったそうです。

宗教の違いが戦争まで起こしてしまうことが、私達には理解できないのと同様に、異なる宗教が共存することは、「有り得ない」「とてもユニーク」だという風に、諸外国からはとらえられているそうです。

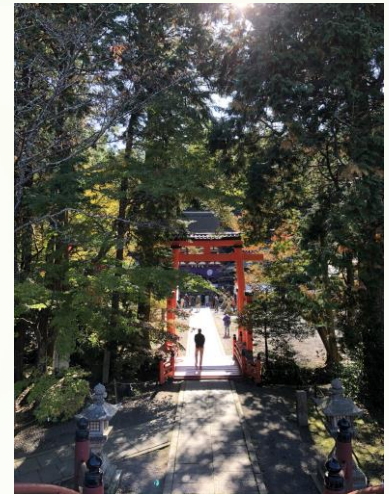
異なる文化を受け入れる柔軟性、神と仏が融和した日本人の精神性、共存するという考え方について宮司さんがお話してくださいました。

共存する精神は、日本人が知らぬ間に身に付けている精神です。

日常の中でも、異なる考えや文化と共存できる精神をもっと発揮していくことが、平和への第一歩につながるんだなあと、感じました。

日増しに寒くなってきていますが、お風邪など召されませんように。

どうぞご自愛くださいませ。



輪橋の上からパチリ



楼門



室町時代に再建された春日造りの本殿



今月も最後まで読んで頂きまして、ありがとうございました。

来月もよろしく願いいたします。